

今治歴史散歩

大成経凡

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第30回は、来島海賊頭領子孫の久留島武彦翁（1874～1960）の事績を紹介し、翁が昭和期に訪ねた今治の足跡を歴史散歩したいと思います。

第30回 久留島武彦と今治

●来島城主の子孫・久留島武彦

豊後森藩主を祖父にもつ久留島武彦は、明治7（1874）年6月に現在の大分県玖珠町森地区に誕生します。先祖のルーツをたどると、その初祖は来島城主の村上通康で、その子・通総の時に同家は豊臣大名の一門に列します。通総の代から来島姓を称するようになり、その子・康親は関ヶ原合戦で西軍に味方したことで伊予の所領（風早郡など）を奪われ、豊後で大名復帰を果たすのは1601年9月のことでした。

豊後森藩1万4000石の領域は、現在の大分県玖珠郡を中心に、別府市や日出町に飛び地がありました。陣屋を置いた森地区は高い山々に囲まれた盆地にあり、来島氏への処遇は陸へあがった河童、の印象を抱かせます。しかし実際は、九州内陸の主要な街道沿いであって、角牟礼城（国指定史跡）という織豊系城郭を有していました。また、別府市では鶴見岳山頂から麓の明礬温泉付近までが所領で、日出町豊岡の港から船を使った参勤交代を行っていました。

久留島姓となるのは1616年のことで、康親の子・2代藩主通春の代でした。3代通清の代に弟へ分知を行って



来島康親の肖像画（大分県玖珠町森／安楽寺所蔵）

1万2500石とし、旗本・久留島家を誕生させています。そして幕末まで改易されることなく存続し、明治期に藩主家系の久留島宗家は子爵・貴族院議員の地位にありました。

●日本の青少年文化の礎を築く

宗家後継者の可能性を有する武彦でしたが、少年時代にキリスト教に入信するなどして宗家と折り合わず、その道は断たれます。それでも、日清戦争従軍の際に戦場ルポを雑誌『少年世界』へ投稿したところ、主筆・巖谷小波の目にとまり、



岐阜少女会と小波（中列中央）・武彦（後列中央）
（『少女世界』第5巻第7号／明治43年5月）

道が開けます。小波は、わが国の近代児童文学の開拓者で、「桃太郎」などの日本の昔話を読み物に再編成し、お伽のおじさんとして全国の少年少女から慕われました。両名は、明治36（1903）年に日本初の話し言葉による「口演、童話会を横浜で開催し、翌年は川上音二郎一座による日本初のお伽芝居（児童劇）をプロデュースしています。

やがて武彦は、口演童話の第一人者となり、全国を行脚しながら青少年文化の種を播いていきます。大正時代には中野忠八らとボーイスカウトの普及活動にも努め、大正13（1924）年にデンマークで開催された第2回世界ジャンボリーでは日本の副団長として参加。現地で同国出身の童話作家・アンデルセンの功績を訴えて脚光を浴びます。昭和戦後、ボーイスカウト日本連盟を再興した人物・久留島秀三郎（5代総長）は、武彦の婿養子（忠八の弟）でした。

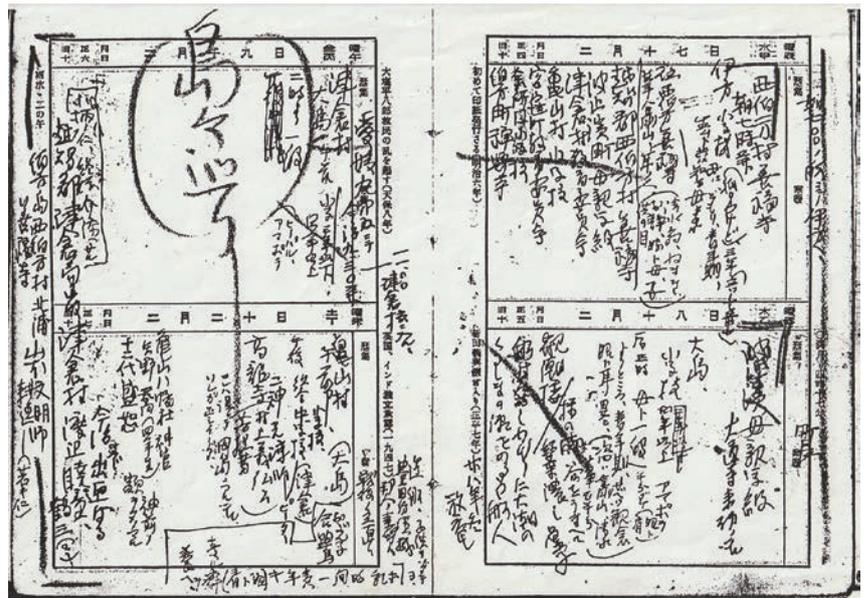
●講演行脚で父祖の地・今治へ

昭和に入ると、愛媛県でも武彦の講演機会が増えていきます。新聞でそのことを知った北条下難波・大通寺の越智廓明住職は、講演先の今治を訪ね、同寺が伊予における来島家菩提寺であることを武彦に説きます。それが昭和15（1940）年のことで、武彦はとても感激し、戦後の愛媛訪問はルーツ探しの旅となりました。そして、廓明へ保育園の開設を勧め、廓明の晋山式に親友の曹洞宗管長・高階権仙を呼び寄せるなど、同寺の支援にも尽くしました。

昭和29（1954）年の武彦直筆日記には、同年2月に「島々巡り」と赤鉛筆でマーキングされた箇所があり、今治地方の講演行脚が綴られています。2月16日夜に尾道経由で伯方島入りし、翌17日に西伯方村の伊方小学校と善福寺で講演。18日は波止浜町で小学生・母親向けの講演を行い、「来島城主子孫」と講師紹介されたようです。19日は大島の津倉村で小学生・一般向けの講演、20日は亀山村で小・中学生向けの講演、21～23日は宮窪町で園児・小学生・中学生・一般向けの講演…と続き、友浦小学校を最後に尾道経由で九州小倉へ移動しています。

日記には、接客者の名前も記されています。宮窪町滞在時は、矢野勝明校長宅に泊まり、アットホームな時間を過ごします。勝明氏（1906～1995）は、後に能島村上家子孫と宮窪町をつなぎ、今日の村上海賊ミュージアムの礎を築いた先哲で知られ、同町における剣道普及や郷土史振興にも尽力しています。

さらにその年の5月にも、武彦は伯方島・大三島・大島を数日間にわたって講演行脚します（当時79歳）。この2回の訪問時に武彦は来島（城跡）に初上陸し、その感動を後日、わが子へ子供のように語ったそうです。現在、玖珠町三島公園には武彦を顕彰する久留島武彦記念館があります。



昭和29年の武彦直筆日記（複写）（鈴木典彦氏旧蔵）



武彦（後列左）と矢野勝明（後列中央）家族（昭和29年撮影／矢野庄志氏所蔵）